

219. フェフキダイ

ALL石川のお鮭「いしかわ旬の鮭だより®」に相応しい素材集めを始めて数年、当文が公開される頃には、丸8年が経過することになる。「もう新素材（鮮魚分類）に出会えることは、ほぼないのだろう」と思っていた矢先に、当魚「フェフキダイ」に出会えた。

何かぼんやり「まだまだ新素材に出会える機会はある」と根拠のない確信を得た。



その存在を知っている。または、県内に生態は有るはずであるが、流通しない・店頭に並べられなく、入手できないものが一つ。その存在や漁獲の有無が未知・情報が無いものがもう一つ。前者は、何れ帰趨となるのであろうが、後者は、全く予想・予見できない。ゼロなのかもしれないが、こうやって新素材に出会えることがあるから、ゼロでないことは、間違いないものの、膨大にあるのか、何れ枯渇してしまうのかさえ不明である。

例え枯渇する運命であってさえ、枯渇する前に、当方の寿命が尽きてしまうことも十分あり得る。また、新素材の発見が収束しつつあっても、素材同士の組合せによる「新たな鮭ネタ」や、はたまた「お鮭の概念」をはるかに超越する何か新しい「領域」が「発見」もしくは「発明」される（する）のかも知れない。「永遠の98%」＝持続可能なのか。